

出会って広げよう

中学校では、【図画工作】という教科から【美術】という教科名に変わりますね。「なんだか難しそう・・・。」なんて思っていませんか？そんな心配はありません。中学校の美術では、表現や鑑賞する活動に幅を広げ、造形的な見方感じ方を働かせたり、美術文化と豊かに関わったりしていきます。今回はゴッホ《種まく人》を鑑賞しましょう。ぜひ、見方感じ方を広げて取り組んで見てください。

めあて

新たな美しさに出会い、心の世界を豊かにしよう

ワークシートを進めるアドバイス①

教科書1 P,2~3

出会って広げよう

- 左側のゴッホの種まく人をじっくり鑑賞しましょう。正面はもちろん上下、左右をしっかりと見てください。
- 難しい人へ色から感じることは？形から感じることは？

The diagram illustrates the process of using a worksheet. On the left, a dark grey box titled 'ワークシートに記入しよう' (Fill in the worksheet) contains two questions: '1 特に着目したところはどこですか？' (Where did you particularly focus on?) and '2 なぜ、そこに着目したのですか？' (Why did you focus on that?). Two red arrows point from this box to the right. The top arrow is labeled '一番気になったところは' (The part I was most interested in) and points to the first question on the student sheet. The bottom arrow is labeled 'どうでして気になったのでしょうか' (How did you become interested?) and points to the second question. On the right, a white box titled '出会って広げよう' (Expand by meeting) contains a pre-writing activity. It asks for the student's name and grade, and includes a pre-writing task: '【めあて】ゴッホの《種まく人》を鑑賞し、新たな美しさに出会い、心の世界を豊かにしよう。' (Objective: Appreciate Van Gogh's 'Sowing with a Hoe', discover new beauty, and enrich the world of the heart.) It also includes a quote from Van Gogh: '「この地方は大気の透明さと明るい色の効果のため日本みたいに美しい。水が美しいエメラルドと豊かな青の色の広がりを生み出し、まるで日本版画にみる景色のようだ」' (This place is so beautiful like Japan because of the transparency of the atmosphere and the effect of bright colors. The water is so beautiful emerald and the rich blue colors create a vastness, it's like the landscape seen in Japanese woodblock prints.) Below this, it asks '種まく人をよくみてみよう' (Let's look closely at the sowing man) and lists the two questions from the worksheet: '1 特に着目したところはどこですか？' and '2 なぜ、そこに着目したのですか？'.

ワークシートを進めるアドバイス②

教科書1 P,2~3

出会って広げよう ゴッホの自画像を見ながら読んでください。

ゴッホは1853年、オランダ南部のズンデルトで牧師の家に生まれます。聖職者を志しますが、神学部への受験で挫折。その後伝道活動を行ううち、画家を目指すことを決意します。その生涯を通じて何度も挫折を繰り返しながら自らの生きる意味を追求した人物です。

出会って広げよう アルルの跳ね橋を見ながら読んでください

オランダで生まれたゴッホは、北国の重く暗い光を反映した作品を描いていました。その後新しい出会いをもとめてパリや南フランスのアルルに移り住み、特にアルルの強い光に魅せられて鮮やかな色と力強いタッチで作品を描くようになりました。「この地方は大気の透明さと明るい色の効果のため日本みたいに美しい。水が美しいエメラルドと豊かな青の色の広がりを生み出し、まるで日本版画にみる景色のようだ」
ゴッホより

ワークシートを進めるアドバイス③

教科書1 P,2~3

出会って広げよう 浮世絵との出会いを見ながら読んでください。

ゴッホは、パリに出る以前、小説『シェリ』を読みジャポネズリーに魅了され、浮世絵などを通して、日本に対する強いあこがれをもちました。浮世絵がもつ、大胆で奇抜な構図な色彩などを自分の表現に生かしました。ジュリアン・タンギーの店で、ゴッホは絵具を買っていたのだが、若い画家を育て、支援してくれる彼を、ゴッホは敬愛の気持ちを込めて描いています。

教科書1 P,2~3

出会って広げよう 毛糸の画像を見ながら読んでください。

ゴッホは色彩対比の効果を考えるため、色チョークや混じり合う毛糸など身近なものを用いていたと思われます。特に赤と緑など、色対比のとよい色彩効果など導きだしていたそうです。

ワークシートを進めるアドバイス④

インターネット環境で、ミレーの《種まく人》を検索して見れる人は鑑賞してください

ゴッホは19世紀フランスの写実主義のジャン=フランソワ・ミレーの代表作《種まく人》に共鳴し、何度も同画題に取り組んでいます。

「種まく人を描くことは昔から僕の念願だった」ゴッホ

ワークシートを進めるアドバイス⑤

教科書1 P,2~3

出会って広げよう

右側の《種まく人》を改めて鑑賞してみましょう

- ・ゴッホの生い立ちや作品に対する思いから改めて作品を鑑賞してみましょう。
- ・ゴッホは、この作品からどんなことを伝えたかったのでしょうか？

ふりかえり

作品を鑑賞してみて・・・

新たな美しさに出会い、心の世界を豊かにすることができましたか？

《種まく人》は聖書にある「神の言葉をまく人」の寓意で、かつて伝道師をしていたゴッホ自身の姿であったのかもしれませんが。